

本がいっぱい!



Teen's 2019

『星を見あげたふたりの夏』《Fロ》

シンシア・ロード／著 吉井知代子／訳
丹地陽子／絵 あかね書房

ある日、偶然出会った二人の少女、リリーとサルマ。前向きなサルマに背中を押されて、内気なリリーは、ブルーベリー・フェスティバルに、ハチの家を売るブースを出すことを決意する。そしてサルマは、奨学金のため、ブルーベリー・クイーンを目指す。



『ギヴ・ミー・ア・チャンス』《32》

大塚敦子／著 講談社

ジーマック
GMaCと呼ばれるドッグ・プログラム。少年院にいる少年たちが、「保護犬」を家庭で飼えるように訓練するプログラムだ。少年たちは、犬と1対1の信頼関係を築いていく中で、責任感や思いやり、忍耐を学び、自己肯定感を育てていく。

TOKOROZAWA PUBLIC LIBRARY
所沢市立所沢図書館



『奏のフォルテ』《Y Fク》

黒川裕子／著 講談社

天才と言われた14歳のホルン奏者の奏。憧れのホルン奏者レオニード・アプトを追ってアメリカのジュリアード音楽院を受験したが、アプトに「音に愛がない」と言われ不合格になってしまう。音楽をやめるか悩む奏だが…。

『カーネーション・デイ』《Fア》

ジョン・デヴィッド・アンダーソン／著
久保陽子／訳 ほるぷ出版

クラスのみんなから親しまれているビクスビー先生が、病気のために学校に来れなくなってしまった。トファー、ステイブ、ブランドの三人は、先生との初めての出会いを思い出し、ある決意をする。



『ぼくがスカートをはく日』《Y Fポ》

エイミ・ポロンスキー／著 西田佳子／訳
まめふく／絵 学研プラス

ぼくは、これまでずっと、男の子の服を女の子の服なんだと自分に言い聞かせて着てきた。だって心は女の子なのだから。そんなある日、学校で演劇のオーディションのチラシを見た。ぼくは自分らしく生きたいと、女神の役に挑戦することに。

『もうひとつの屋久島から』

《29.1》

武田剛／著 フレーベル館

日本初の世界自然遺産、屋久島。「縄文杉」をはじめとした屋久杉が有名だが、この屋久杉には、世界自然遺産に登録されるまで、伐採が繰り返されてきた歴史があった。

『八十日間世界一周』上・下

《Y Fベ》

ヴェルヌ／著 高野優／訳 光文社

機械のような正確さで、毎日同じ時間に同じ行動をするフィリアス・フォッグ。彼は通っている《改革クラブ》の仲間との会話の中で、「八十日間で世界一周する」という賭けをすることに。

『さよ』《Fモ》

森川成美／作 榎えびし／画 くもん出版

十二歳のさよは、流鏝馬を見に、兄と平泉へ行った。そこで出会ったのは、平家を滅ぼした源氏の将軍、源義経。さよは、この出会いを好機とみた。なぜならさよは、平家の生き残りであり、源義経の暗殺を考えていたからだった。



『給食アンサンブル』《YFキ》

如月かずさ／著 光村図書出版

新しい中学校になじめない美貴は、同級生がしかけたサプライズの七夕ゼリーをきっかけに、クラスにとけこんでいく。給食の甘口マーボー豆腐が好きなのに、子どもっぽいが好きと言えない桃。そして、もうすぐ転校する梢の、大好きな給食の最後のメニューは……。

『ガラスの梨』《Fコ》

越水利江子／作 牧野千穂／絵 ポプラ社

80年前、小学生の笑生子には、家族や愛犬との大切な日常がありました。しかし、それは永遠には続かず、戦争は笑生子から日常を奪い、炎と苦しみに巻き込みます。笑生子は、度重なる空襲の中を、命からがら家族と逃げていくことになり



『約束の国への長い旅』《91.4》

篠輝久／著 清水書院

1940年の夏、一人の日本人の勇気ある決断が三千人ものユダヤ人の命を救った。リトアニア領事館でビザを書き続けた杉原千畝。彼の愛の行動は今でもイスラエルの人々の心に残る。

『深呼吸の必要』《Y91.1》

長田弘／著 角川春樹事務所

時には木々の光を浴びて言葉を深呼吸することが必要だ。この本の詩の言葉は、深呼吸に必要なだけの言葉が書かれている。透きとおった、風のおい



『その魔球に、まだ名はない』《Fク》

エレン・クレイジス／著 橋本恵／訳 あすなろ書房

10歳の剛腕ピッチャー、ゴードンは、その実力が認められ、リトルリーグの選手となるはずだった。しかし、ゴードンは女の子だという理由ですぐにクビになってしまう。女子の参加を認めないリトルリーグに対し、ゴードンは勇敢に立ち向かっていく。

『南西の風やや強く』《YFヨ》

吉野万理子／著 あすなろ書房

エリートの親に言われるがまま、難関中学をめざして、勉強漬けの毎日を送っている伊吹。夜の神社でおみくじを破ろうとしたとき、同じクラスの多朗に「今から、南西を目指そうぜ」と声をかけられた。とまどいながらも、伊吹は多朗の後から歩き出した。



『かならずお返事書くからね』《Y93.4》

ケイトリン・アリフィレンカ／著 マーティン・ギャンダ／著 リズ・ウェルチ／編 大浦千鶴子／訳 PHP研究所

学校の課題でジンバブエに住む少年、マーティンと文通を始めることになったアメリカの少女ケイトリン。手紙を交わすうちに親しくなっていく二人だったが、マーティンが過ごす日常は、ケイトリンの想像をはるかに超える過酷なものだった。

『フタバスズキリュウもうひとつの物語』《Y45》

佐藤たまき／著 ブックマン社

1968年、高校生の鈴木少年が福島県いわき市で首長竜の骨を発見した。「フタバスズキリュウ」である。50年後、ひとりの女性研究者が、この恐竜が新種であることを証明して正式な学名をつけようと研究に励んでいた。

